

県指定史跡

平得アラスク村遺跡

沖縄県指定史跡 平得アラスク村遺跡の概要

伝承によると、昔石垣島に大きな地震があり、島人のほとんどが亡くなってしまいました。しかし、2人の兄妹が災厄を逃れ、平池と呼ばれる池のほとりに住み着いたそうです。やがて、妹は神託によって処女懐胎しました。次第に子孫は繁栄し、ヘーギナー村（平喜名村）を形成していったということです。

そこから、アラスク村へ移動し、その後、南下するように、ウイスズ村、ナカントウ村、そして現在の平得村へ移動したという伝承もあります。

平得アラスク村遺跡は、1984（昭和59）年に沖縄県教育委員会によって、発掘調査が実施されました。13世紀中頃～15世紀頃の中国製陶磁器、島で焼かれた中森式土器などが出土しています。しかし、13世紀～14世紀の資料は少なく、ほとんどの出土資料は15世紀代であることから、15世紀を中心とした遺跡であることがわかっています。

石積みの痕跡や、アラスクバルカーと呼ばれるウリカー（降り井戸）も残されています。

1981（昭和56）年8月13日に沖縄県指定史跡となっています。



平得アラスク村遺跡を見学なさる皆さまへ

平得アラスク村遺跡への道は、細い農道となっています。遺跡の説明版前に車が止められるくらいのスペースはありますが、広くはありません。また、同遺跡は、現状のまま保存し、特に史跡整備等を行っておりません。そのため、雑草が茂っており、石積みも容易に確認することはできません。アラスクバルカーについては、戦時中に壕として利用されたらしく、すでに埋められ、水源としては利用されていません。また、タイミングによっては、草に覆われて、井戸自体が見えず、足を滑らせてしまうこともありますので、近づかないようにしてください。

周囲には牛舎等があり、個人有地が多いので、見学の際には、近隣の皆様へも配慮していただきますよう、お願いいたします。



拡大
→

